

④ 現地調査及び分析

想定した原因を絞り込むために必要な現地調査及び分析を行います。

● 想定した原因を絞り込むための現地調査及び分析

現地調査及び分析は、「認識された問題」が本当に存在するかどうかや、想定した原因を絞り込む（肯定だけでなく否定も含みます）ための裏付けデータを得るために実施します。このために既往資料等の分析結果次第では、現地調査を必要に応じて実施します。「既存資料のとりまとめ」段階で収集・整理した資料に加え、さまざまな資料（関連文献、関係行政機関や地域住民などのデータ）を収集し、さらに現地調査で得られたデータを加えて、要因の変遷や関連性について整理・解析します。

例えば、ある生物の減少という問題点に対しては、現状と変遷（個体数、遡上・産卵状況など）を確認し、次にその生物が必要とする環境条件（河道の微地形・河床材料など）や関連する流域の条件（土砂動態、汚濁負荷など）の現状や変遷を調査して、相互の関連性などを分析します。縦横断測量結果と河川水辺の国勢調査のデータを経時的に整理すること、河川環境情報図を活用することなどが基本となります。数値解析・シミュレーションが必要となることも考えられます。

調査担当者はこれらのことを十分理解し、想定した原因やその絞り込みの内容を踏まえて、調査・分析を効果的・効率的に行います。また、現地調査及び分析の結果は、のちに目標の設定や計画案の作成、効果の予測などにも利用できることを念頭において計画・実施するようにします。

原因を絞り込むために、生物の生理・生態に関する調査や実験が必要になることもあります。ある生物の減少の原因が、河川改修や流域の変化ではなく、汚染物質の影響や気候変動である場合も想定されるからです。このような場合は専門家への相談等を行った上で実施します。



● 管理区域以外の場所等での調査

流域や上流、河口域などの管理区域以外の場所での調査が必要となることもあります。当該河川からは十分な知見が得られない場合は、より自然な環境が残っていたり、すでに同様のインパクトを受けている類似の河川についても調査を行う場合もあると考えられます。